

新型コロナウイルス抗体検査

2020年6月

【新型コロナウイルスの抗体検査について】

新型コロナウイルス抗体検査はまだ確立した診断方法ではありません。以下(少なくともこの一段落)をよくお読みの上でご検討ください。

- 抗体検査は、ウイルスそのものを検出するPCR検査や、抗原検査とは異なります。
- 新型コロナウイルスに現在感染しているかの診断はできません。(陰性証明になりません)
- 感染してもすぐに抗体が陽性となるわけではありません。
- 検査の性質上、熱や咳など現在症状がある方に行う検査ではありません。
- 検出される抗体が、次の感染を防ぐことができる中和抗体かどうかはわかりません。

そのため陽性でも安心できるわけではないことをご注意下さい。(免疫パスポートではありません)

※抗体検査が陽性であっても、PCR検査を行うことはありません。

【当院で使用する抗体検査について】

当院の通常の血液検査と同様に昭和メディカルサイエンスへ外注します。

試薬はスイス製薬大手のロシュ製のElecsys®Anti-SARS-CoV-2(RUO))を使用します。

血清/血漿中のSARS-CoV-2に対する抗体(IgGを含む)をECLIA法にて定性的に検出。
感度(陽性を陽性と判断する確率)：100%(PCR陽性になってから2週間以上経過後で)
特異度(陰性を陰性とする確率)：99.8%

インフルエンザの迅速検査のような簡易キットではなく、血液検査で行うためその場で結果は出ません。通常の血液検査の際に、同時に行うことができます。

【陽性的中率について】

陽性の結果が、本当に正しい確率を陽性的中率と言い、有病率(事前確率)の影響を受けます。

6月初旬で東京都ではコロナPCR陽性者は約5200人で、人口1400万人に対する割合は0.036%でした。これを有病率(事前確率)として陽性的中率を計算すると15%です(陽性の8割以上が実際は陰性)。有病率が低いと陽性的中率は低くなるのです。

しかし、実際は抗体を持っている人はもっとたくさんいるかもしれません。

もし都内で1万5千人(有病率0.1%)が抗体をもっていると仮定すると陽性的中率は33%。
もし都内で5万人(有病率0.35%)が抗体をもっていると仮定すると陽性的中率は64%。

このように背景によって結果の解釈は大きく変わります。今回の試薬は特異度99.8%と精度が高い検査ですが、感染者が少ない状況では、**陽性が出ても五分五分**くらいかもしれないとご理解下さい。

【抗体検査によるメリット】

抗体検査は自治体が行ったり経過を追ったりすることで疫学的なメリットはあるかもしれませんが、個人個人へのメリットは限定的かもしれません。ご理解をお願いします。

新型コロナウイルス検査を希望の方は以下の3点をお願いします。いずれもネットから可能です。

予約

→

(初診問診票(初診の方))

→

抗体検査問診票(アンケート)



とよす内科クリニック